

1. 小学一年生が漢字をバリバリ読んだ

一流作家を感動させた一年生

私が漢字教育に取り組んで数年経った頃の話です。

朝日新聞の学芸欄に、作家の

故大岡昇平氏が、「入学後、二か月で百字 漢字をばりばり読む小学校」という見出しで、私の学級を全国に紹介してくださいました。このことから、「石井漢字教室」とか、「石井方式」という言葉が、いっぺんに世間に広まりました。

当時の文部省の学習指導要領では、一年生が一年間に学ぶ漢字は46字、そのうち30字ぐらい覚えられればよい、となっていました。

ところが、私の学級の一年生は、入学して二か月で、百字の漢字を覚えたのです。そして、一年生を終えるまでには、学習指導要領の目標の十倍、三百字の漢字を覚えてしまったのです。

大岡氏が、私の授業を見に来られたのは、三学期の二月でしたから、私の学級の一年生は、事実、三百字ぐらいの漢字を覚えていたと思います。この時も、五、六年生でも習わない漢字がたくさん使って

あって、とてもすらすらとは読めないような文章を、いきなり子供たちに読ませました。ところが、私の学級の一年生は、大岡氏たちの見守る中で、これをバリバリと読んで見せたのです。大岡氏はこの時の様子を、「それは全く感動的な光景であった」と書いていらっしゃる。

コラム

部首 尚

八(分ける、開く)と向との会意形声字。向は、家の窓の象形で、尚は、“窓をあけはなつ”ことを表した字。“日光や新鮮な空気が家にはいることを願う”ことで、“希望する”が本義。また音が上(ショウ)と同じなので“うえ”。また転じて“尊ぶ”意味。

【賞】 上(ショウ)の意味の尚と貝とで、“ほうびとして上の人からたまわる財貨”。

【常】 布の意味の巾と尚との会意形声字。本義は“スカート”。スカートは昔、婦人の普段着として“つねに”用いられた。

【堂】 上の意味の尚と土との会意形声字。土を高く盛ってその上に建てた“りっぱな建物”。

では次に、その時、一年生の読んだ文章をお目にかけましょう。

一年生が読んだ文章

「竹男さん、肉屋さんへ行ってね」と、台所からお母さんが言いました。竹男さんは、「はい」と、返事をしました。け

れども、本から目を離しません。

「鳥のひき肉を五十円、買って来て頂戴」

竹男さんは、やっと立ち上りました。そして、お母さんから渡された百円札を、ポケットに入れると、買物袋を持って、急いで出かけて行きました。

米屋さんの前で、進さんに呼び止められました。

「竹男さん、どこへ行くの」

「肉屋さんへお使いに」

「何だ、お使いか。走っているから、僕はどうしたのかと思ったよ」

「だって、早く帰って、読みかけの本の続きを読みたいんだもの。さようなら」

竹男さんは、また駆け出して行きました。

肉屋さんの店先には、ハムやソーセージや卵が並んでいました。

「おじさん、五十円下さい」

竹男さんは元気に言いました。

「はい、はい。五十円、何を上げましょうか」

「ええと、何をかうんだっけ。ええと、牛肉ではないし、ハムだったかな。何だったかなあ」

いくら考えても思い出せません。竹男さんは、気が悪くなりました。

「家へ帰らて、もう一度聞いて来ます」

竹男さんは、あわてて家へ駆け戻りました。

中学で学ぶ漢字も読んだ

この文は、当時の小学校の二年生の教科書にあった文です。でも、その本では、印の付いている漢

字だけが使われていて、その他の漢字は全部ひらがなで書かれていました。また、印の付いている漢字は、中学、または高校になってから学ぶ漢字です。

このように、中学校でも習わない漢字が多く使われた、五、六年生でも読めない文章を、私の学級の一年生は、バリバリと読んだのでこの程度に漢字が使われた文章なら、いきなり読ませても、たいていの子供が平気でずらずらと読みます。事実、大岡氏にお見せした授業は、参観者が教室に来られてから、

「今日は、これを読むことにします」

と言って、この文章を子供たちに配り、下読みさせないで、いきなり名指しして読ませたものです。

では、石井学級の一年生は、どのようにして、一年間に、このような文章が読めるようになったのでしょうか。

コラム

部首 白

親指の象形。“親指”が本義で、“しろい”は仮借。しかし太陽の象形による指事字とも見られ、太陽光線が“しろ”なので、親指の白とは別に作られたとも考えられる。

【百】 一と白との会意形声字。昔、親指一本で“ひゃく”の数を表したことによる。

コラム

部首 令

△と冂との会意字。集の本字で、“ひと所に集まる”。冂は“しるし”。天子が諸侯を召集して授ける“書きつけ”が令。

【命】 口と令との会意形声字。“口で直接に伝える令”。今は命も令も文書、口答に関係なく使われる。“いのち”(生命)はそれが天の命令であって人力ではどうすることもできないという考え方から。

【冷】 冫(凍の本字、こおり)と令との会意形声字。君主の命令は“つめたく厳しい”ので冫の冷たいのと合わせて“つめたい”を表す。